

大な試行錯誤の賜物なのです。失敗で積み上げた情報の新しい組み合わせによって新しい価値を生み出すことこそ成功への道程です。同じメンバーは、今年の香椎祭に再チャレンジするそうです。成功するまで諦めないこと！これが成功の秘訣ですね。楽しみです。

⑤ 新会計基準の導入に見る会計情報の与える影響

会計基準の大切さについて論述し、新会計基準の導入に対する考察を、なぜ取り上げたかが明確になっているため、専門性に富んだ発表に係わらず分かり易くよく勉強しています。年金制度への移行の理由と会計基準との関係がやや短絡的（企業業績への影響だけか）であった以外は高い評価を受けたことも領けます。参考文献による断定的な見方だけではなく、複眼的あるいは批判的な見方と分析を加えるともっと素晴らしいものになると思います。意見の違いは当たり前！違わないほうが怖いですよ。『なぜ？それってホント？』を基本に疑問をいっぱい持って、うんと議論をしましょう。

⑥ auの快進撃

～圧倒的なリーダーに対抗するチャレンジャーの有効な競争戦略とは？～

シンプルなテーマ選定が非常に分かり易く、さらに具体的なサービス事例で説明が簡単明瞭でした。携帯端末の商品差別化、料金の差別化（学割）、コンテンツ（音楽配信）など違いと戦術を分かり易く説明しています。最後に、ではなぜドコモは、ターゲットを明確にしないのか？に対し、「あの会社では真似するのが困難」と一刀両断に切り捨てるところなんか、学生らしい明快さですね！携帯事業だけに止まらず、チャレンジャー企業の有効な戦略へ展開したところも心憎いですね。マーケティング手法も取り入れ成功へのキーワードも示されており、研究発表会のモデルケースのような纏め方です。その分、まとまりすぎて破天荒な魅力に欠けるようですが、そこまで要求するのはちょっと贅沢かな？

第3分科会

第4回商学部グループ研究発表会 審査講評

前ホテルオークラ福岡社長 金子 順一

1. 分科会全体の評価

全般的にみて、パワーポイントの出来栄え、使い方が素晴らしく聴講者の理解を容易にした。それに比べて、内容の掘り下げ方が浅かったり、また、質問に答えられず、発表のためだけの勉強に終わった印象を受けたグループもあったのが残念である。もう一つ気になったのは、殆どのグループの発表の仕方が原稿の棒読みのケースが多く、これでは聴衆に対する説得力が欠けてしまう。

2. 各グループに対するコメント

① ありがとうSHOP袋～SHOP袋の秘密

パワーポイントの出来栄は玄人はだして、素晴らしかった。報告も非常に分りやすく、スマートであった。若い20代の女性に対しアンケート調査をしたのは良いことであるが、対象が学内の女子学生であったのは、少し安易ではないだろうか？ せめて、天神あたりでアンケートを取るくらいの熱意が欲しかった。また、SHOP袋が、企業（小売業）にとって、ブランドイメージを高めたり、宣伝物として有効であることは、社会人であれば周知のことであるので、内容の突込みが足りなかったように思う。ただ、ブランドもののSHOP袋がYAHOOのネットオークションで取り扱われていることは、初めて知った。

② 食と観光～成功事例を九州に活かす

食によって観光を推進している地域が増加している現状を踏まえて、このテーマを取り上げたのは時宜を得ている。そして、成功事例として、静岡県富士宮市の焼きそば、長崎市新地中華街を取り上げたが、ただ、成功事例の説明だけに終わってしまった感じで、「九州に活かす」という提案の焦点がぼけてしまった。

食文化は、それぞれの地域の風土、歴史、伝統などの上に築かれているので、九州という広域ではなく、ある地域を絞って、その地域における食による観光振興を具体的に提案した方が良かったのではないだろうか。

その際、何処のマーケットに対し情報を発信し、誘致するのかの視点が必要である。それにもかかわらず、現在、自治体の殆どが、この視点を欠いて観光推進を行っているのが実状である。

③ 少子化による年金制度の改善策

政治そして、年金や医療問題などに無関心な若者が多いと言われているなかで、少なくとも、聴講していた若い人たちに、年金問題に目を向けさせる効果はあったと思う。しかし、少子高齢化が進む日本では、賦課方式より積立方式の方が良いが、500兆円の資金が必要との説明であったが、その調達方法についての質問に答えられなかったのは準備不足である。

まとめとして、スウェーデンと同じような所得比例年金に変更し、それによって生じる格差の是正には最低保証年金を給付すれば良いと簡単に結論づけてしまったが、スウェーデンと日本とは国情も歴史も異なっている。例えば、スウェーデンでは平均所得税率は約35%、消費税は25%である。国民は納得して高い税負担をし、格差解消のために多額の税金を投入しているのであり、また、現在の社会保障制度が確立するまでには、歴

史的にも紆余曲折を経て、今日に至っているのである。

④ 観光におけるユニバーサルデザインの現状と課題

ユニバーサルデザイン（以下UD）について、皆に分かりやすく、その背景から説き起こし説明したので、聴講者もUDというものをよく理解出来たと思う。高齢者の旅行実態と志向について、福岡市東区のお年寄りに対し、自分たちでアンケートを実施し、その努力を惜しまぬ調査には好感がもてる。そして、先進的な熊本県におけるUDの取り組みに絞ったのも良かったと思う。最優秀賞にふさわしいプレゼンテーションであった。

⑤ ありのままで～島根にみる地域観光の在り方

観光の経済波及効果の大きさなど、観光がなぜ注目されているかという背景から入り、地域観光の在り方について、比較的に関交通の便が悪い島根を取り上げたが、よく調査、研究している様子が伺えた。現存する観光資源を活かし、地域住民、メディア、交通など五つの要素をまとめて、その魅力を発信していくという主旨には賛成であるし、説明の論旨も明快であった。欲を言えば、この五つの要素を具体的にどのようにまとめて、情報を何処のマーケットに対し発信していくか迄の提案があれば、更に良かったと思う。

⑥ 日本が関係する領土問題の解決方法について

竹島や尖閣諸島の領有問題という大きなテーマに挑戦した意欲は買える。しかし、国家戦略にかかわる外交問題を、20分という限られた時間内で研究内容を発表するには、余りにも大きすぎるテーマではなかったかと思う。例えば、竹島の問題でも、韓国が国際司法裁判所のテーブルに着かないから、「お互いに領土の所有権を放棄する」という方法で解決するという提案は、前例が一つあるとはいえ、万一、日本側が同意しても、韓国側が同意しなければ全く意味の無いことであり、簡単に結論づけるような問題ではないと考える。

第4分科会

第4回商学部グループ研究発表会 審査講評

毎日新聞社顧問（元西部本社編集局長）篠原 治二

はじめに

初めての経験であったが、おもしろかった。知的刺激をうけた。正直に告白すると、図書館から国際会計基準や、ブランド価値論の本を何冊か借り一夜漬けの勉強をして臨んだ。

ところが当日、「審査はどうぞ独断と感性でお願いします」といわれた。なんと温かい言葉であろう。これは先生方のホスピタリティーを、十分に表わしていた。

学生諸君の真摯な態度には、感銘をうけた。この企画は、開かれた大学にふさわしい、